

令和8年度
経営強化プラン
評価委員会

— 令和8年7月27日（月） —

令和7年度決算を踏まえた経営強化プランの評価

(1) 数値目標の達成状況について

(2) 6つの戦略の進捗状況について

■ 経営の効率化に係る数値目標①

R7年度			目標の達成状況
	プラン目標値	決算値	
外来入院患者数比率(%) ＝外来患者数÷延べ入院患者数	167.4	180.3	→ 目標 未達成
紹介率(%)	68.0	89.8 紹介件数10,501件	} 目標 達成
逆紹介率(%)	82.0	114.4 逆紹介件数13,374件	
手術件数(件/年)	4,300	4,415	→ 目標 達成

■ 経営の効率化に係る数値目標②

R7年度			目標の達成状況
	プラン目標値	決算値	
新規入院患者への手術実施率(%)	50.0	43.9	目標 未達成
化学療法(外来)(件/年)	4,100	3,775	目標 達成
化学療法(入院)(件/年)	1,050	1,077	
緊急入院の割合(%)	52.5	52.2	目標 達成

医療機能・医療の質、連携の強化等に係る数値目標①

R7年度

	プラン目標値	決算値	目標の達成状況
病床稼働率(%)	80.9	81.7	目標 達成
経常収支比率(%) =(医業収益+医業外収益)/(医業費用+医業外費用)	97.2	91.6	目標 未達成
修正医業収支比率(%)	95.8	90.9	

医療機能・医療の質、連携の強化等に係る数値目標②

R7年度			目標の達成状況
	プラン目標値	決算値	
職員給与費比率(%) ＝職員給与費÷医業収益	49.5	52.4	目標 未達成
材料費比率(%) ＝材料費÷医業収益	27.4	31.8	



人勧に伴う給与費増 ＋ 物価高騰に伴う材料費(薬品費)増



どちらも上昇し
大変厳しい状況

医療機能・医療の質、連携の強化等に係る数値目標③

R7年度			目標の達成状況
	プラン目標値	決算値	
入院患者数(延べ)(人)	120,450	107,605	→ 目標 未達成
入院単価(円)	73,000	75,904	
平均在院日数(日)	11.8	12.0	} 目標 達成
外来患者数(延べ)(人)	201,690	194,037	
外来単価(円)	21,000	23,075	

①役割・機能の最適化と連携の強化

1 地域医療支援病院としての役割強化

外来入院患者数比率 **150%** 台を目指す。

＝(外来患者数÷延べ入院患者数)

	実績				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
外来入院患者数比率(%)	174.1	180.2	170.7	178.9	180.3

プラン

目標
未達成

R7年度目標
167.4

①役割・機能の最適化と連携の強化

2 紹介・逆紹介率の向上

地域医療連携病院として、紹介率・逆紹介率の向上を目指す。

R7年度目標：紹介率**68.0%**、逆紹介率：**82.0%**

	実績				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
紹介率(%)	69.4	67.1	81.3	84.8	増加 89.8
				プラン 目標 達成	R7年度目標 68.0
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
逆紹介率(%)	83.4	82.6	102.4	109.4	増加 114.4
				プラン 目標 達成	R7年度目標 82.0

①役割・機能の最適化と連携の強化

3 高度急性期機能の充実

プラン

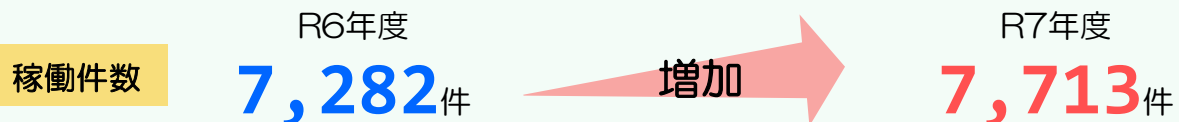
目標**達成**

令和5年度に**脳卒中ケアユニット(SCU)**を開設。



令和6年4月 3.0T MRI 稼働、令和7年4月 1.5T MRI 稼働

→ **MRI 2台体制**で検査実施件数**増(+431件)**



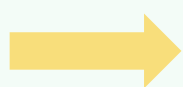
①役割・機能の最適化と連携の強化

3 高度急性期機能の充実

プラン

目標**達成**

令和7年5月～令和8年3月(11か月)急性期充実体制加算の取得により



約 **1.5** 億円の増収

②医師・看護師等の働き方改革

1 医師の確保と働き方改革

医師の確保

- ① 医師確保の働きかけ強化
- ② 働きやすい勤務環境の整備
- ③ 若手医師確保のため魅力ある研修プログラムの策定

取組結果

- ①民間紹介会社を通じての採用
R6年度：0件 → **R7年度：1件** ※放射線科医を採用
- ②医師住宅制度、移転料の支給、院内保育所を継続
- ③基本的臨床能力評価試験(JAMEP)を病院負担で受験
1年目必修科目の特色を継続

働き方改革

- ① 適正な労務管理
- ② タスクシフト・タスクシェアの推進
- ③ 当直勤務の軽減

取組結果

- ①長時間労働者への面接指導実施
R6年度：7件 → R7年度：7件
- ②医療従事者負担軽減計画に則りドクターズアシスタントを配置
R6年度：16名 → R7年度：**15.8名**(目標 18名)
- ③平均当直回数
R6年度：2.61回/月 → **R7年度：2.46回/月**

②医師・看護師等の働き方改革

2 看護師の確保と働き方改革

人材確保

- ① 学校訪問先の拡大（県南部・京都方面）
- ② 新卒者、既卒者対象の病院説明会の開催(オンライン)
- ③ 職能団体、学校主催の就職説明会への参加
- ④ 奨学金制度の周知、拡大

取組結果

- 採用者数 R6年度：26人 → **R7年度：22人**
- ① 実習受け入れ教育機関、安定的に入職のある県内外の教育機関を訪問 → **県内3校・県外1校**
 - ② 市内中学・県内高校生を対象に病院説明会を開催
実習受け入れ校の担当者を招聘し、看護師の進路についてプレゼンテーションを実施(参加者11名)
 - ③ 職能団体、学校主催の就職説明会への参加(7回)
市内看護系大学2校の学祭参加、商業施設にて看護体験会を共催(10月・12月)
 - ④ チラシ、ホームページ、デジタルサイネージを活用
看護師教育機関にパンフレットを配布

人材定着

- ① 育休復帰者、育児支援制度下にある看護師への定期的な面談の実施
- ② 部分休業、短時間勤務終了者の配属先の配慮
- ③ 認定看護師、特定看護師の資格取得の支援の状況、資格取得者の人数

取組結果

- 退職者数 R6年度：38人 → **R7年度：25人**
(定年退職：5人) (定年退職：0人)
- ① 定期面談は**100%実施**
 - ② 休暇中の離職者、復帰後の**退職者は0名**
 今後は、男性看護師育休者に対しても配慮を検討
 - ③ 認定看護師 16名
 特定看護師 6名(**1名増**)

②医師・看護師等の働き方改革

2 看護師の確保と働き方改革

タスクシフト推進

- ① 移管業務の抽出と他部門への移管
- ② アシスタントの採用
- ② 特定行為研修受講者の拡大

取組結果

- ① 担当部署とタスクシフトの拡大について継続的に協議
- ② ナイトアシスタント R6年度13名 → R7年度12.8名
エイドアシスタント R6年度 6名 → R7年度 5.7名
- ③ R7年度は1名が特定行為研修の院内認定を修了
現在、特定行為修了者 6名(うち院内認定者3名)

看護提供方式の再考

セル看護提供方式の定着とその影響

取組結果

R7年初めに一般病棟にセル看護提供方式を導入

定着状況

病棟毎に差異があることから、阻害要因の明確化、課題解決等を看護科長の活動を軸に定着促進を図った。

効果(カッコ内は前年度実績データ)

時間外業務平均時間

R6年度：6.3時間→R7年度：6.1時間

身体拘束率

R6年度：4.97% → R7年度：3.47%

患者1人あたりナースコール件数

R6年度：3.4回/日 → R7年度：2.7回/日

②医師・看護師等の働き方改革

3 メディカルスタッフの業務の再構築による医師等の負担の軽減

栄養治療科

管理栄養士の病棟配置

取組結果

病棟配置には至っていないが、以下の取組を実践中

- ・電子カルテ端末を増設、病棟滞在時間を確保
- ・外来、入退院支援業務の効率化
- ・経営コンサルの指導のもと、特別食加算の取得増

臨床検査科

- ①医師、看護師等の外来・病棟業務における一部業務のタスクシフト
- ②主要病棟へ臨床検査技師を常時配置

取組結果

- ①タスクシフトについて
中央処置室および病棟での静脈ルート確保や血液製剤搬送等を実施
- ②技師の病棟配置について
常時配置までは至っていないが、可能な範囲で病棟業務の支援を実施

②医師・看護師等の働き方改革

3 メディカルスタッフの業務の再構築による医師等の負担の軽減

リハビリテーション科

急性期リハビリの推進

- ①入院期間が長期化する診療科に対する、急性期リハビリの展開
- ②呼吸器疾患、廃用症候群のリハビリ開始日の早期化
- ③リハビリスタッフと入退院支援室、病棟看護師との連携強化
- ④リハビリスタッフによる患者の機能的ゴールの見極め、後方支援病院の医師との連携強化
- ⑤発症早期からのリハビリ提供の集中化
- ⑥回復期リハビリテーション病棟設置病院との連携

取組結果

- ①30日超のリハビリ実施延べ件数
R6年度：10,890件 → R7年度：8,621件
特に、入院14日以内の脳血管リハは4.4単位/日(全国中央値2.8単位/日を大きく上回る)
- ②リハビリ開始日の平均
呼吸器疾患 R6年度 3.31日 → R7年度 4.18日
廃用症候群 R6年度 3.99日 → R7年度 4.75日
- ③PT、STを一部病棟に「病棟専任セラピスト」として配置
- ④リハビリ標準化班を設置し評価の標準化を進めた
- ⑤発症14日以内のリハビリ実施件数
R6年度：22,822件 → R7年度：27,352件
- ⑥近隣病院との連携を強化
R6年度：268件 → R7：275件

②医師・看護師等の働き方改革

3 メディカルスタッフの業務の再構築による医師等の負担の軽減

放射線科

MR検査における造影用静脈路の確保

取組結果

- ・ 告示研修受講者 18名
- ・ MR検査の静脈確保実績
R7年度 721件

②医師・看護師等の働き方改革

3 メディカルスタッフの業務の再構築による医師等の負担の軽減

臨床工学科

医師・看護師の業務負担軽減、臨床工学技士の専門性向上と組織力の強化

【手術センター】

- ①手術ナビゲーションシステムの後方支援
- ②内視鏡用ビデオカメラの保持・操作
- ③適切な機器管理

【内視鏡センター】

- ①各種検査の介助
- ②適切な機器管理

取組結果

【手術センター】

- ①脳外科領域ナビゲーション **16件** (R6年度 23件)
 整形外科領域ナビゲーション **3件** (R6年度 5件)
 → 立会い依頼は**100%対応**
- ②R7.12より、スコープオペレータ業務を開始
29件 (12～3月、週2回) 立会い
- ③機器トラブル 219件中
技士が対応し解決したもの 169件 (R6年度 90件)
 (部品交換・修理 31件、設定変更等 138件)

【内視鏡センター】

- ①R7年度の検査・治療の介助実績
上部内視鏡 1,040件 (R6年度 850件)
下部内視鏡 410件 (R6年度 250件)
内視鏡的胆管膵管造影 45件 (R6年度 5件)
- ②**機器管理業務の全て**を看護師から**臨床工学技士へ移行**
 看護師の負担軽減を図った。
 メーカーによる定期点検にも関わり機器の状態把握に努めた。

②医師・看護師等の働き方改革

4 DAの配置の最適化による医師の診療負担の軽減

現状と課題

- ①人材の確保と定着
- ②人材育成
- ③業務の見直しと最適な人員配置

取組結果

- ①R6年度末：16名（目標 19名）
R7年度末：15.8名（目標 18名）
- ②DA同士の指導・フォロー体制、勉強会、職員による定期面談の実施
- ③医師の指示のもと、診断書、診療情報提供書の作成、検査の指示や指導料の入力業務等を実施

④新興感染症に備えた平時からの対応

行政機関・医療機関と議論し、**BCPに基づき**必要な準備を行う。

★赤字部分が令和7年度の新規事業

1 感染拡大時の対応

- ✓新型コロナウイルス感染症の流行時と同じく、一部病棟を転用
- ✓専従の院内感染管理者を配置し、組織的に感染防止対策を実施

2 平時からの対応

- ✓感染対策向上加算の算定病院および保健所と連携
- ✓院内マニュアルの整備
- ✓**県内および院内における感染症発生動向の共有**

3 クラスター発生時の対応

- ✓電子カルテに対応マニュアルやフロー等を掲載
- ✓定期的にミーティングを開催し対応方針を協議、各部署への周知を図る

取組結果

- ✓近江八幡市立総合医療センター、豊郷病院、友仁山崎病院、彦根中央病院、湖東圏域の21のクリニックと連携**(昨年度より1施設増)**
- ✓マニュアルは随時見直し
→病棟、外来に配置する他、電子カルテ掲示板に掲載
- ✓院内感染対策委員会を月1回開催
- ✓eラーニングを活用した全体研修を実施
(後日配信により受講率向上を目指す)
- ✓**月1回の感染対策Informationを発信**

⑤施設・設備の最適化

1 電子カルテシステム更新とサイバーセキュリティ対策

3 サイバーセキュリティ対策

2025年3月31日「サイバー攻撃を想定した事業継続計画」(IT-BCP)を策定

取組結果

2026年3月25日 IT-BCP訓練実施

- ・ (社)日本シーサート協議会が定める集合型の机上訓練
- ・ 訓練参加者 22名 (院長、副院長(経営戦略室長、看護部長)、医療情報システム委員会委員 等)



⑤施設・設備の最適化

2 医療DXの取組

◆DXの推進

医療の質の向上や、業務の効率化による働き方改革の推進のため、医療DXを進める。

取組結果

音声認識アプリ“AmiVoice iNote Lite”の利用促進

→看護記録作成の時間短縮を狙う

病棟看護師の利用率 R6年度：14.6% → R7年度：**29.1%**

※「時々使用 54.5%」「週に数回使用 28.9%」の割合が高い。台数不足により全ての職員が使用できていない。

主な利用目的：看護記録、カンファレンス記録、写真撮影

病床管理システムの導入(2026年2月より稼働)

→病床コントロールの適正化を図る

2025年				2026年					
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
78.4	80.3	78.5	82.9	84.9	89.0	85.9	83.3	83.9	84.1

→ システム稼働

今後の予定

✓生成AIの導入 (Ubie(株))

令和8年6月1日より稼働開始、利用の拡大を図る

※現在の利用内容

【医師】

診療情報提供書、退院サマリ作成に使用

【リハビリテーション科】

リハビリサマリ作成に使用

【その他】

議事録作成に使用

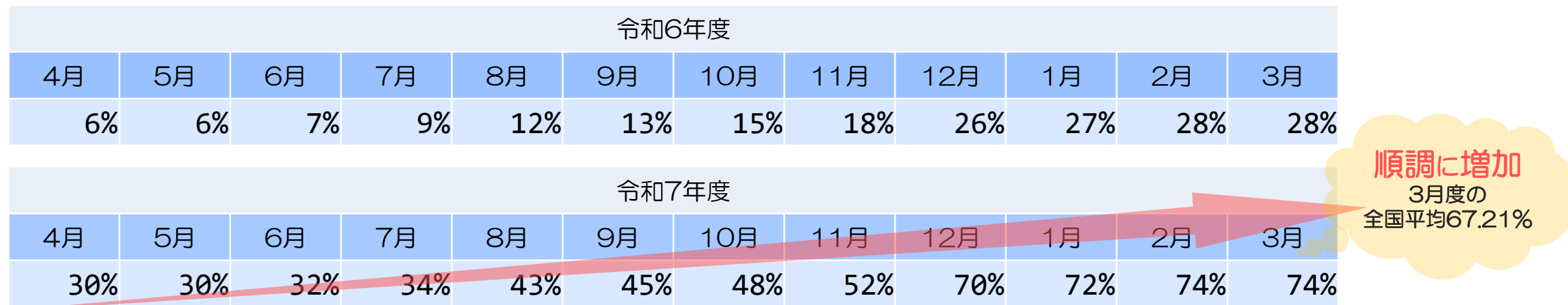
今後の予定

音声から記録を作成

(カンファレンスの記録等)

⑤施設・設備の最適化

3 マイナ保険証の利用促進



4 長寿命化計画に基づく施設整備

令和7年度に実施した設備更新

エレベータ（5,720万円）、水中ポンプ・医療ガス設備（4,075万円）、職員住宅外壁改修（1,001万円）、防火シャッター（1,485万円）、血液クリーン病床空調設備（1,679万円）

⑥経営の効率化等

1 外来の縮小による入院診療の強化

プラン目標：150%台

プラン

目標未達成

実績

外来入院患者数比率

＝(外来患者数÷延べ入院患者数)

令和7年度

令和6年度

180.3% - 178.9% = 1.4 pt 増加

外来、入院患者数

外来	194,037人	197,160人	3,123人減
入院	107,605人	110,204人	2,599人減

※比率は増加したが外来患者は減少しており一般外来の縮小は進んでいる

2 手術件数の維持

プラン目標：4,300件

プラン

目標達成

実績

手術件数

令和7年度

令和6年度

4,415件 - 4,299件 = 116 件 増

⑥経営の効率化等

3 化学療法の実施 プラン目標：外来4,100件、入院1,050件 → プラン 目標**達成**

実績

	令和7年度	令和6年度	
外来	3,775 件	3,739 件	36 件増
入院	1,077 件	886 件	191 件増
合計	4,852 件	4,625 件	227 件増

外来は微増、入院は大幅増
病院の方針として、**外来化学療法から入院化学療法へ注力**する方向へ舵を切った

4 緊急入院から予定入院へのシフト プラン目標：52.5% → プラン 目標**達成**

実績

緊急入院の割合 令和7年度 **52.2%** 令和6年度 **54.1%** = **1.9 pt 減少**

緊急入院の減少(=予定入院の増加)は、患者・病棟の双方の負担軽減に繋がるため、今後も推進を進める。

⑥経営の効率化等

6 施設の有効活用

◆ 脳血管疾患の診療強化

令和5年度に**脳卒中ケアユニット(SCU)6床**を**開設**

稼働率

R6年度
49.1%

増加

R7年度
99.8%

◆ MRI装置2台体制

	R6年度	R7年度
MRI稼働件数(件)	7,282	7,713

R6年4-12月は2台体制
R7年1-3月は1台体制

2台体制で検査件数の増加を図り、**431件の増**となった。

◆ 既設設備の有効活用

4A病棟の一部を医師控室として整備した。

⑥経営の効率化等

7 落穂ひろい活動の継続

	令和6年度		令和7年度
1	療養・就労両立支援指導料	8千円	0円
2	退院患者紹介加算	4,584千円	4,560千円
3	特定薬剤治療管理料	6,209千円	5,306千円
4	認知症ケア加算	9,392千円	10,430千円
5	薬剤総合評価調整加算 薬剤調整加算	335千円	405千円

⑥経営の効率化等

7 落穂ひろい活動の継続

	令和6年度		令和7年度
6	せん妄ハイリスク患者ケア加算	0円	1,016千円
7	排尿自立支援加算・指導料	0円	1,787千円
8	栄養指導・特別食加算	0円	2,447千円
合計		20,528千円	25,950千円

5,422千円の増！！

⑥経営の効率化等

7 落穂ひろい活動の継続 - 経営コンサルタントの活用

令和7年度も引き続き「**㈱グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン**」と契約し、収益向上に向けたプランの進捗管理および経営改善策の提案・実行支援を受けた。

約 **1億2,000万円**
の増収効果

◆ 業務内容および成果

業務内容

- 1) 病床管理の適正化
- 2) 薬剤部
- 3) 栄養治療科

取組結果

- 1) ベッドコントロールの適正化(病床稼働率UP)
 病床稼働率 R6年度：74.0% → R7年度：81.7%
 入院単価 R6年度：70,804円 → R7：75,904円
 → **6,800万円**の増収
- 2) 薬剤関連の加算項目の算定UP
 薬剤師一人当たりの月額収益の大幅UP
 R6：224,453円 → R7：282,968円 (全国平均：249,060円)
 → **680万円**の増収
- 3) 特別食加算、栄養食事指導の算定
 特別食加算 R6：37,376件 → R7：37,000件
 栄養食事指導の算定 R6：1,926件 → R7：2,468件
 → **170万円**の増収

⑥経営の効率化等

7 落穂ひろい活動の継続 - 経営コンサルタントの活用

業務内容

- 4) 看護部
- 5) 入退院支援室
- 6) リハビリテーション科
- 7) 医事課

取組結果

- 4) 摂食機能療法、排尿自立支援加算の算定UP
摂食機能療法 R6：1,095件 → R7：1,732件
排尿自立支援加算 R6： 236件 → R7： 626件
→ **430万円の増収**
- 5) 入退院支援加算の算定UP
入退院支援加算 R6：2,700件 → R7：3,068件
→ **210万円の増収**
- 6) リハビリテーション総合計画評価料等の算定UP
リハビリ総合評価料 R6：2,190件 → R7：2,747件
退院時リハビリ指導料 R6：1,407件 → R7：1,463件
早期離床リハビリ加算 R6： 989件 → R7：1,123件
→ **300万円の増収**
- 7) 救急医療管理加算の算定UP
救急医療管理加算 R6：15,816件 → R7：17,550件
→ **1,800万円の増収**
DPCコーディングの適正化
→ **1,500万円の増収**

⑥経営の効率化等

8 費用の削減

◆人件費の適正化

職種別の残業時間合計(時間/年、人)

	令和7年度		令和6年度		増減	
	合計残業時間	延べ職員数	合計残業時間	延べ職員数	合計残業時間	延べ職員数
医師	29,965	706	32,901	739	-2,936	-33
看護師	32,195	3,418	34,130	3,570	-1,935	-152
医療技術員	19,853	1,147	19,660	1,101	193	46
事務員	7,631	289	7,754	264	-123	25
合計	89,644	5,560	94,445	5,674	-4,801	-114


 残業時間 年間**4,800時間**の**減**

⑥経営の効率化等

8 費用の削減

◆人件費の適正化

職種別・一人当たりの平均残業時間(時間/月)

	令和7年度	令和6年度	増減
医師	41.6	42.8	-1.2
看護師	7.9	8.3	-3.2
医療技術員	14.4	14.8	-0.4
事務員	13.8	14.4	-0.5

一人当たりの平均残業時間減

⑥経営の効率化等

8 費用の削減

◆ 人件費の適正化

時間外勤務手当の実績(千円/年)

	令和7年度	令和6年度	増減
医師	153,409	159,654	-6,245
看護師	116,457	97,334	19,123
医療技術員	54,908	51,896	3,012
事務員	11,755	12,100	-345
合計	336,529	320,984	15,545

時間外勤務手当の総額 **1,500万** 円の増

⑥経営の効率化等

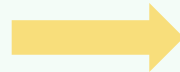
8 費用の削減

◆ 材料費の適正化

【薬品】 コンサルによる価格交渉

R6年度

約 **2,650万円** の削減



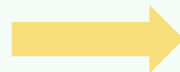
R7年度

約 **2,760万円** の削減

【診療材料】 共同購入品への切替え

R6年度

約 **3,400万円** の削減



R7年度

約 **3,980万円** の削減

⑥経営の効率化等

8 費用の削減

◆ 経費の適正化

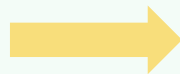
LED化の推進

全館(100%)更新完了
電気使用量：10～15% 程度の削減

財源確保

寄付採納の総額

R 6 年 度 **5 2 4 万 円**



R 7 年 度 **4 3 0 万 円**

⑥経営の効率化等

8 費用の削減

◆ 経費の適正化

財源の確保

遺贈寄附の受付け開始

令和8年1月からREADYFOR株式会社の
「**遺贈寄付サポートサービス**」に提携先団体として**登録**。

当院への遺贈寄附を検討している方に相談窓口の紹介が可能となった。

※現時点での実績はなし。


NPO・大学等の団体の皆様 → 金融機関・土業等の皆様 →


0120-948-313
 受付時間 平日 10:00~17:00

遺 贈 寄 付

[ホーム](#)
[窓口について](#)
[お客様の声](#)
[寄付先](#)
[お役立ち情報](#)
[資料請求](#)
[お問合せ](#)

 公益財団法人榊原記念財団 Sakakibara Heart Institute	 公益財団法人 結核予防会 Japan Anti-Tuberculosis Association	 彦根市立病院 Hikone Municipal Hospital
29.榊原記念財団	30.結核予防会	31.彦根市立病院
活動概要 心臓病の治療・臨床研究や循環器医学の発展	活動概要 結核は今でも成人感染症としてNo.1キラー	活動概要 滋賀県湖東地域の医療を支える
団体サイトへ →	団体サイトへ →	団体サイトへ →